

本校の特色ある教育活動

6

空き缶を集め、 東日本大震災の復興支援

報告者 福岡県福岡市立高取中学校 中山 貴香 先生

1、活動のポイント

本校は昭和31年開校し、56周年を迎えた。

学校の教育目標に、人間性豊かな強く逞しく生きる生徒の育成を掲げ、

- 豊かさ 真実を愛し豊かさを求める生徒
- 温かさ みんなと手をつなぎ助け合う生徒
- 逞しさ 逞しい身体と強靱な意志を持つ生徒

授業をはじめ、集団や社会の一員として望ましい人間関係のもと、学校生活を充実させている。生徒会は、様々な取り組みを通して、よりよい学校生活の向上を図っている。特に、空き缶回収は、長年続く本校の特色ある活動である。



本校の校訓「豊かさ」「温かさ」「逞しさ」

2、特色ある本校の空き缶集め

本校は、全校で空き缶を集める活動に取り組んでいる。この活動は、約10年前に始まり、これまで毎年続けられている。活動の推進にあたっては、生徒の自主的・積極的な活動の展開が図られている。活動の計画・準備は生徒会が中心となり、夏休みと冬休みの年2回、全校生徒に呼びかけ、生徒の実践的な態度の育成を図っている。持ち寄った空き缶は、いったん校内に集められ、それを空き缶回収業者を通して換金し、日本ユニセフ協会などに寄付してきた。

3、東日本大震災被災地への支援

生徒会では昨年、これまでの空き缶集めを継続しながらも、3月11日に起きた東日本大震災の被災地を支援しようと、被災地支援を目的にした空き缶集めの活動に取り組むことにした。活動は、東日本大震災の発生の翌月4月から行われた。また、本校だけの活動にとどまらず、本校校区内にある高取小学校や室見小学校の児童会にも協力を呼びかけた。当初より、被災地支援を目的にして例年を大きく上回る量が集まってきた。9月14日の時点での回収量は約565キログラム。過去最高だった前年の約320キログラムを大幅に超える量となった。

4、第56期「アルミ缶祭」(夏休み明け)



5、第57期 役員

室見小学校に朝の挨拶運動を兼ねて「アルミ缶祭 ～in winter～」のお願い。



6、まとめ

空き缶集めの活動を通して、生徒会長は、「震災があり、支援協力しようという意識がみんな強い」という感想をもち、この活動の意義と、更なる意欲を向上させている。空き缶は9月にいったん換金して寄付されるが、回収は今後も継続されていく。

震災の復興にはまだ時間を要し、離れた地域に住む生徒たちが被災地を忘れず意識し続けるためにも、この活動を継続していきたいと思っている。